



毎月19日は
食育の日

れいわ ねんど ふゆやす ごう
令和7年度 冬休み号
いさしりつがっこうきゅうしょく
伊佐市立学校給食センター

感謝の気持ちをもって食事をしよう

がっこうきゅうしょく かてい しょくじ しぜん おんけい なた おお ひと くろう どりょく ささ
学校 給 食も家庭での食事も自然の恩恵のうえに成り立つものであり、多くの人の苦労や努力によって支えられているも
こんげつ ぜんこくがっこうきゅうしょくしゅうかん きかい た もの たいせつ しょくじ かか ひと おも
のです。今月は「全国学校給食週間」もあります。この機会にあらためて食べ物の大切さや食事に関わる人の思いに
かんが
について考えてみましょう。

がっこうきゅうしょく 学校給食について知ろう!

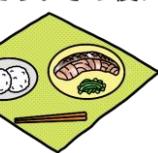
がっこうきゅうしょく 学校給食のはじまり

写真:新潟県栄養教諭 佐藤美春先生

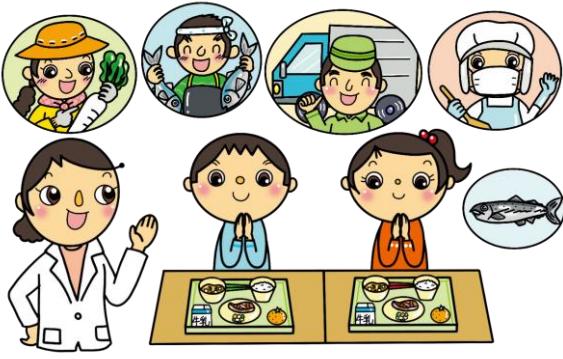


しょうがっこう てら はいだい いま きねり た
小学校があったお寺の境内には、今は記念碑が建てられています
やまがたけんうるおかし たいとう寺。

めいじ 明治22(1889)年、山形県鶴岡町(現・鶴岡
し しょうがっこう いえ ます べんとう も
市)の小学校で、家が貧しくてお弁当を持ってこ
られない子どもたちのために食事を出したこと
にほん がっこう しき いちじ
日本での学校給食のはじまりです。その後、
せんそう 戦争による食料不足で一時
ちうだん 中断されてしまったものの、
せんご かいこく えんじょぶつ
戦後、外国からの援助物資で
さいかい 再開することができました。



がっこうきゅうしょく やくわり 学校給食の役割



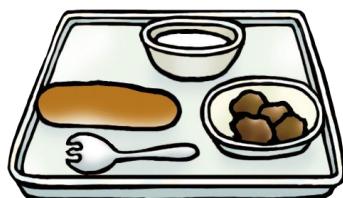
きゅうしょく はじ とうしょ こ
給食が始まった当初は、子どもたちへの栄養補
きゅう おも もくとき げんざい えいよう ほ
給が主目的でした。しかし現在は、栄養バランス
し こ しんしん はつたつ けんこう
のとれた食事で子どもたちの心身の発達や健康の
ぞうしん めざ しゃかいせい きょう
増進を目指すことはもちろんですが、社会性や協
どう せいいしん し せんかんきょう そんちゅう きんろう おち
同の精神、自然環境の尊重、勤労を重んずる態度、
しょくぶん か しゃかい まな きょういくかつどう
食文化や社会のしくみについて学ぶ、教育活動の
いつかん あこな 一環として行われています。

がっこうきゅうしょく 学校給食の 原風景

昭和の給食

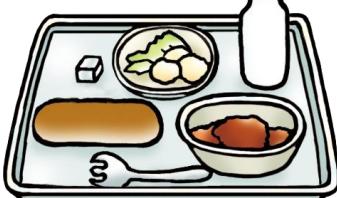
げんざい 現在にいたるまでの給食の移り変わりを紹介します。保護者の方にとっても、懐かしい「思い出の味」があるかもしれません。ぜひご家庭で、好きだった献立や印象深い出来事など、給食の思い出を語り合ってみてください。

しょうわ ねんだい 昭和30年代



パンが主食で、脱脂粉乳をお湯に溶いて作るミルクとおかず一品という献立が多かったようです。くじら肉もよく登場しました。先割れスプーンで食べました。

しょうわ ねんだい 昭和40年代



パンに合わせた洋風メニューがよくありました。飲み物も牛乳に変わり、学校給食用の個包装チーズも作られ、乳製品が家庭に普及するきっかけになりました。

しょうわ ねんだい 昭和50年代



米飯給食が始まりました。カレーライスが食べられるようになり、肉じゃがなどの和食も出るようになつて、内容がとても豊かになりました。はしも使われるようになりました。